

千葉市コミュニティ施設における地域住民の居住地の地域差からみる 利用者の施設選択の実態

日大生産工（院） ○高橋 敦吏
日大生産工 広田 直行

1. はじめに

1-1. 研究の背景と目的

現在、公民館・コミュニティセンターでは、様々な活動が行われている。

公民館は 1949 年に旧文部省のもと社会教育施設として整備され、地域のコミュニティ活動の拠点としての役割を担っている。また、コミュニティセンターは 1973 年に旧自治省のもとモデルコミュニティ事業として、千葉市をはじめとして整備が行われてきた。

しかし、コミュニティ施設利用者の活動要求は多岐にわたり、単一の施設で全ての活動要求を満たすことは困難である。そのため利用者は、遠方の施設の利用や、複数の施設を利用することで活動要求を満たしている。

そこで本研究では、利用者による施設選択の現状とその要因を明らかにすることを目的とする。

1-2. 研究の対象と方法

本研究では、千葉市内の公民館全 47 事例とコミュニティセンター全 14 事例を対象とする。

本稿では、そのうち調査協力が得られた千葉市内のコミュニティセンター12 事例で収集したデータについて報告する。表 1 にその概要を示す。調査方法は、各施設の利用者へのアンケート調査とする。アンケートの質問項目を表 2 に、アンケート集計結果を表 3 に示す。表 3 に示した有効な回答を用いて研究を行う。

2. 施設利用の現状

2-1. 利用する施設の数

利用者が利用する施設数の割合を図 1 に示す。図 1 より、30%弱の利用者が複数の施設を利用していることが分かる。また、5 施設、6 施設、7 施設の利用は全て 1 事例ずつであるがみられる。利用する施設の数が増えるにつれて、利用者の割合は減少する。

表 1 調査対象施設概要

	施設名	建築年	延床面積 (㎡)
中央区	蘇我コミュニティセンター	1979年	2,541
	中央コミュニティセンター	1974年	7,485
	花島コミュニティセンター	2005年	5,186
花見川区	畑コミュニティセンター	1979年	2,494
	幕張コミュニティセンター	1979年	3,122
稲毛区	穴川コミュニティセンター	1992年	2,650
若葉区	都賀コミュニティセンター	1983年	2,511
	千城台コミュニティセンター	1991年	5,152
緑区	鎌取コミュニティセンター	2000年	4,829
	土気あすみが丘プラザ	1993年	4,586
美浜区	真砂コミュニティセンター	1981年	2,212
	高洲コミュニティセンター	1980年	3,459

表 2 アンケート項目

基本情報	
①	性別
②	年齢
③	自宅住所
公民館・コミュニティセンターについて	
④	利用する施設
⑤	利用頻度
⑥	移動方法
⑦	利用する室
⑧	施設を選択する理由

表 3 アンケート集計結果

回答者総数(人)	男性(人)	女性(人)	無効数(人)	有効数(人)
633	172	436	25	608

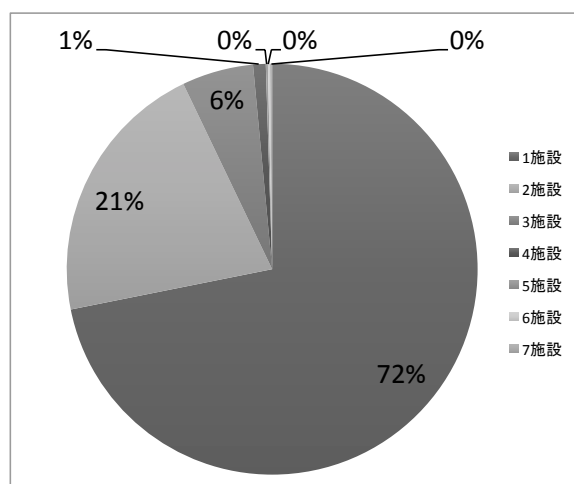


図 1 利用施設数の割合

2-2. 施設距離

アンケート項目の③で得られた情報を用いて街区の重心から施設までの直線距離を算定したものを自宅から施設までの距離として使用し、これを施設距離と定義する。

施設距離の割合を図2に示す。図2より、施設距離が長くなるにつれて利用者数も減る傾向が見られる。このことから、利用者は施設距離の短い施設を選択していると考えられる。また、施設距離が5000mを超えると5%以下になるものの30000mを超えても利用が見られる。

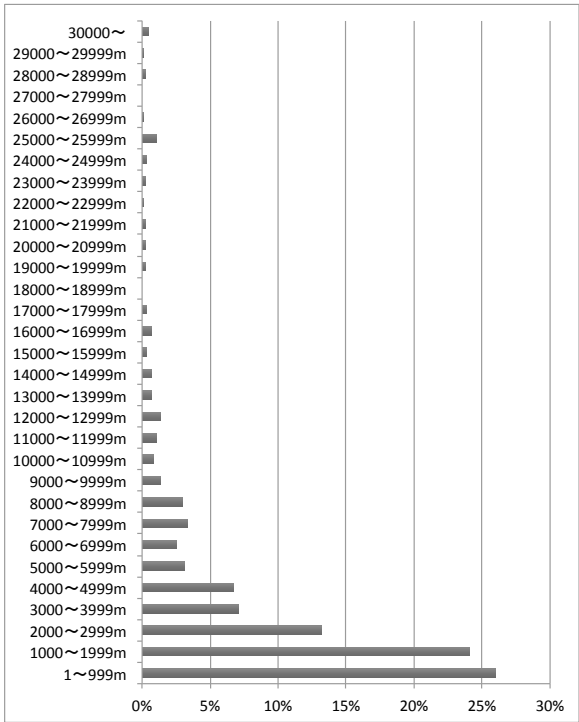


図2 施設距離の割合

2-3. 施設の利用頻度

利用者が施設を利用する頻度の割合を図3に示す。図3より、月2回と月4回の利用が20%以上であることから利用頻度はサークル活動に影響すると考えられる。また、月に5回以上の利用は全て5%以下である。

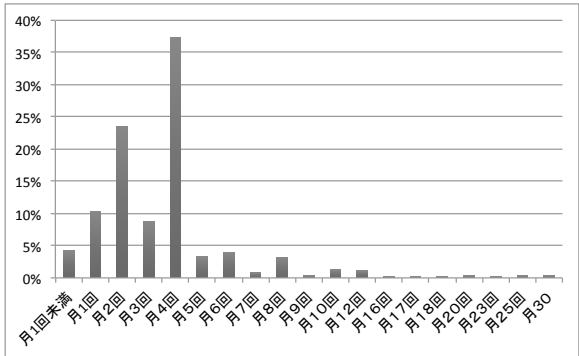


図3 施設の利用頻度の割合

2-4. 施設を利用する際の移動手段の割合

利用者が施設を利用する際の移動手段の割合を図4に示す。図4より車利用者の割合が35%以上で最も多く、徒歩・自転車の割合は25%以下である。バス・電車の割合は15%以下であり最も低いことから、公共交通機関の利用は少ない。全ての移動手段の中で車の利用が最も多いことから、駐車台数の確保が施設利用向上の一助となると考えられる。

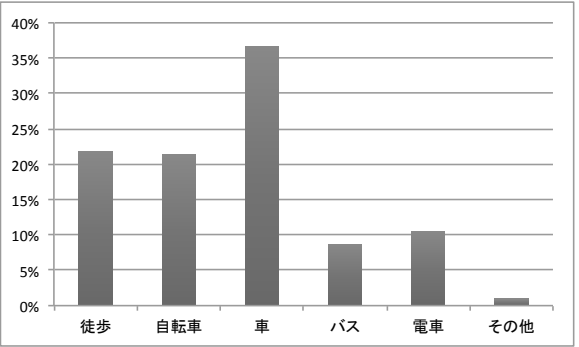


図4 施設を利用する際の移動手段

2-5. 施設利用の形態

公民館には中学校区に住む住民を対象に、コミュニティセンターには千葉市在住・在勤の住民を対象とした、施設利用者の対象圏域が存在する。しかし、対象圏域を超えた利用や、複数の施設を利用するなど、施設利用の形態は多岐におよぶ。対象圏域内の施設を利用することを圏域内利用、対象圏域外の施設を利用することを圏域外利用と定義する。施設利用形態の詳細を表4に、施設利用形態別の割合を図5に示す。

表4, 図5より、複数の施設を利用する際にはNo.⑭の割合が多いことから、コミュニティセンターを複数利用していることが分かる。またコミュニティセンターと公民館の組み合わせではNo.⑩が多いことから、公民館を利用する際には、行政の定めた圏域に関係なく利用していると考えられる。

表4 施設利用形態

分類	No.	詳細
単数利用	①	圏域内公民館
	②	圏域外公民館
	③	コミュニティセンター
複数利用	④	圏域内公民館＋圏域外公民館
	⑤	圏域内公民館＋コミュニティセンター
	⑥	圏域内公民館＋コミュニティセンター複数
	⑦	圏域内公民館＋圏域外公民館＋コミュニティセンター
	⑧	圏域内公民館＋圏域外公民館＋コミュニティセンター複数
	⑨	圏域外公民館複数
	⑩	圏域外公民館＋コミュニティセンター
	⑪	圏域外公民館＋コミュニティセンター複数
	⑫	圏域外公民館複数＋コミュニティセンター
	⑬	圏域外公民館複数＋コミュニティセンター複数
	⑭	コミュニティセンター複数

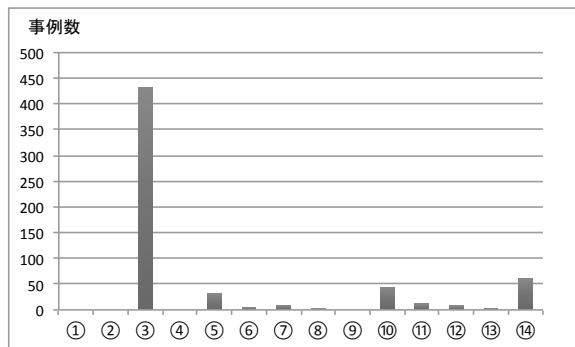


図5 施設利用形態の割合

2-6. 室の設置率と施設選択の関係

各施設に設置されている室名称からサークル活動に利用する室を抽出し、それを分類する。室の分類と、設置率を表5に示す。

施設を複数利用している場合において、利用している施設に設置されている室を他の施設で利用する場合を「同一機能利用」、利用している施設に設置されていない室を他の施設で利用する場合を「他機能利用」と定義する。

複数の施設を利用している利用者における、同一機能利用と他機能利用の割合を図10に、他機能利用時に選択される室の割合を図11に示す。図10より、施設を複数利用している利用者のうち80%以上の利用者が同一機能利用であることが分かる。また、他機能利用は全ての事例でコミュニティセンターと公民館の組み合わせで行われており、図11より、他機能利用時に利用される室は規模の大きい室や専門分化された室であることが分かる。このことから、公民館とコミュニティセンターの間には補完関係があると考えられる。

3. 施設利用者の居住地と施設利用の関係

千葉市内6区の概要を表6に示す。区面積を区内の施設数で割ったものを、1館あたりの圏域として算出する。コミュニティセンター、公民館ともに、最小圏域と最大圏域の間には約4倍の差がある。

3-1. 居住地と利用施設の所在地の関係

施設利用者の居住地と利用する施設の所在地の割合を図12に示す。稲毛区・花見川区は居住区内の施設を利用する割合が50%に満たない。中央区は居住区内の施設を利用する割合が最も多い。また、美浜区を除く全ての区で居住区内の施設の次に多く利用されている。千葉市内の公共交通機関の核となる千葉駅があることから利便性が良いことと、市内の中央に位置しているという地理的要因が自転車や車を利用した移動においても利用者が集まりやすいことに影響していると考えられる。

表5 室の分類と設置率

No.	室分類	設置率	
		公民館	コミュニティセンター
1	集会室 会議室 集会所 講習室 サークル室	100%	100%
2	和室	100%	100%
3	調理室	100%	86%
4	創作室 工作室	24%	86%
5	音楽室	2%	71%
6	ホール 講堂 多目的室	98%	86%
7	体育館 プール	0%	57%
8	図書室	46%	29%

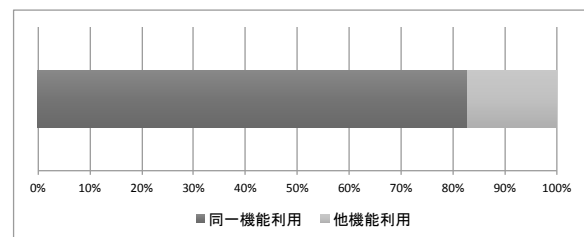


図10 同一機能利用と他機能利用の割合

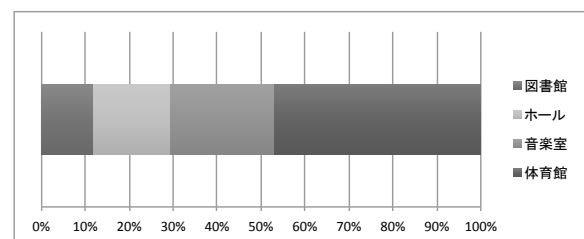


図11 他機能利用時に選択される室の割合

表6 施設利用形態

	面積	人口密度	公民館		コミュニティセンター		公民館+コミュニティセンター	
			施設数(館)	1館あたりの圏域(km ²)	施設数(館)	1館あたりの圏域(km ²)	施設数(館)	1館あたりの圏域(km ²)
美浜区	21.16km ²	7,070人/km ²	6	3.53	2	10.58	8	2.62
稲毛区	21.25km ²	7,390人/km ²	9	2.36	2	10.63	11	1.93
花見川区	34.24km ²	5,250人/km ²	10	3.42	3	11.41	13	2.63
中央区	44.81km ²	4,480人/km ²	9	4.99	3	14.91	12	3.73
緑区	66.41km ²	1,870人/km ²	5	13.28	2	33.21	7	9.49
若葉区	84.21km ²	1,800人/km ²	8	10.53	2	42.11	10	8.42

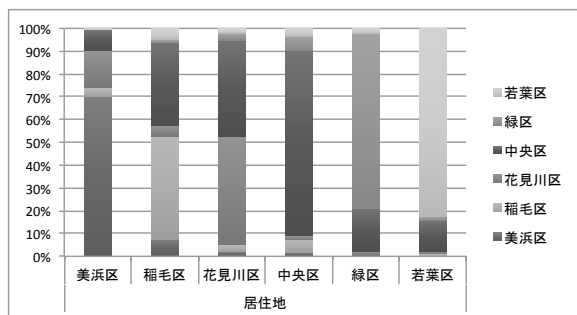


図 12 居住地と利用施設の所在地の割合

3-2. 居住地と利用する施設数の関係

施設利用者の居住地と利用する施設数の割合を図 13 に示す。6 区において中央区に住む利用者が複数の施設を利用している割合が最も多い。これには、3-1 で述べたように、利便性が影響していると考えられる。また、複数の施設を利用する利用者が最も少ない緑区は、区内の施設数が最も少ないことが影響していると考えられる。

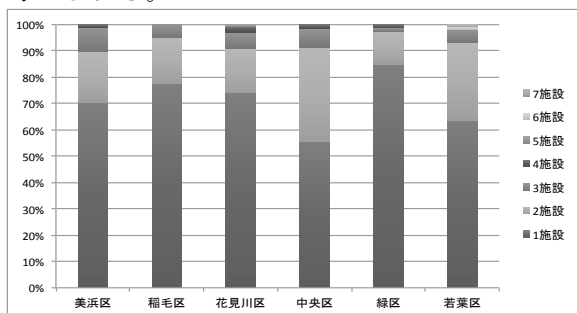


図 13 居住地と利用する施設数の割合

3-3. 居住地と施設距離の関係

施設利用者の居住地と施設距離の関係を図 14 に示す。表 6, 図 14 より稲毛区は 1 館あたりの圏域が最も狭く、施設距離 2000m 未満の割合が最も少ない。次に施設距離 2000m 未満の割合が少ない花見川区も 2 番目に圏域の狭い美浜区とほぼ同等の圏域である。居住地の周辺にいくつもの施設があり、施設を選択できる環境にあることが、この結果に影響していると考えられる。また、この影響は 3-1 で述べたように、稲毛区・花見川区内の住民は居住区内の施設を利用する割合が 50%に満たないという結果にも現れている。

4. まとめ

- 1) 施設利用者の 30%弱が複数の施設を利用している。
- 2) 施設距離が短い方が利用者の割合が多いが、30000m を超えても利用が見られる。
- 3) 公民館を利用する際には行政の定めた利用圏域を超えて、施設を選択している。
- 4) 公民館とコミュニティセンターには機能の補完関係がある
- 5) 利便性や地理的要因が施設選択に影響する。

【参考文献】

- 1) 岩片優二：高齢者の日常利用施設の設置状況からみる地域的課題とその対策
- 2) 片桐隆博：千葉市コミュニティ施設における学習行為と空間の対応

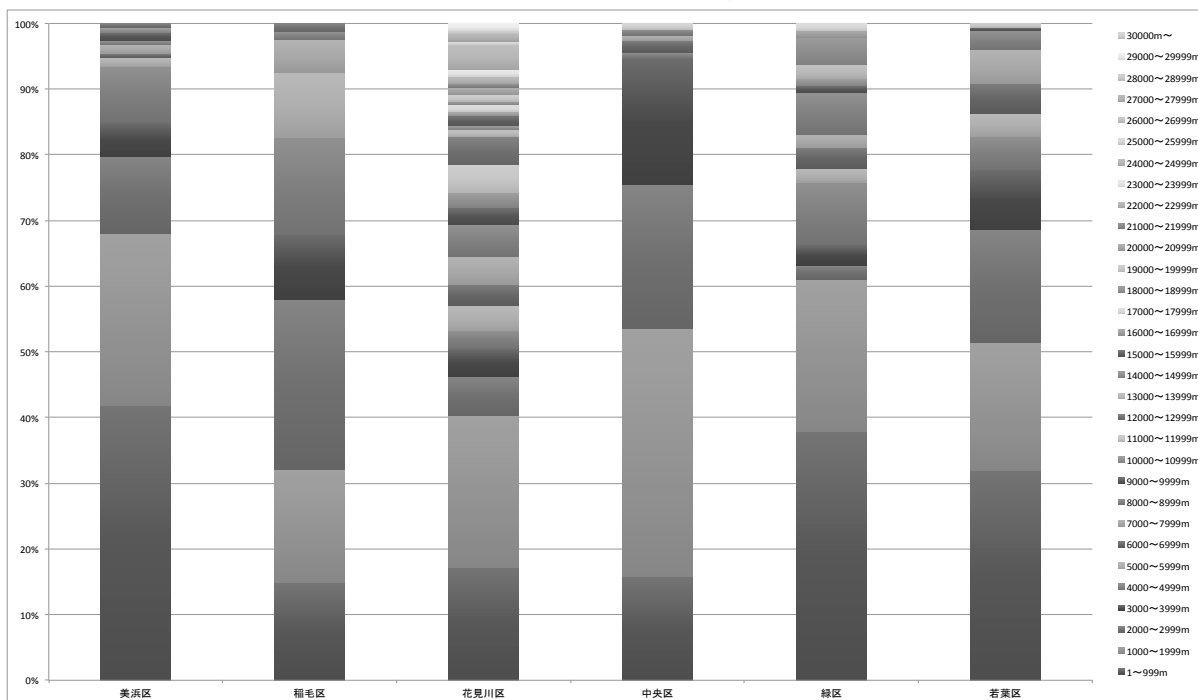


図 14 居住地と施設距離の割合